

1-2 県立学校対象のアンケート調査

(1) 調査の目的

県立高等学校、特別支援学校における親学習プログラムの活用状況を把握し、「親学習プログラム」を効果的に展開するために何が必要かを探るためのデータを得る。

(2) 調査対象

県立高等学校 69 校（全日制 59、定時・通信制 10）、特別支援学校 16 校、附属中学校 3 校の計 88 校を対象に行った。

(3) 調査方法

電子データによる調査書に記入していただくという方法で、今年度も含めて過去 3 年間の状況について回答を得た。回収率 100%であった。

対 象	数	回収数	回収率
高等学校	69校	69	100%
特別支援学校	16校	16	100%
附属中学校	3校	3	100%

(4) 調査内容

【保護者を対象にした学ぶ機会】

- ・ 保護者を対象にした学びの機会の有無
- ・ 親学習プログラムの活用の有無
- ・ 保護者を対象にした学ぶ機会を提供する際に重視している点

【親学習プログラム指導者の活用がある場合】

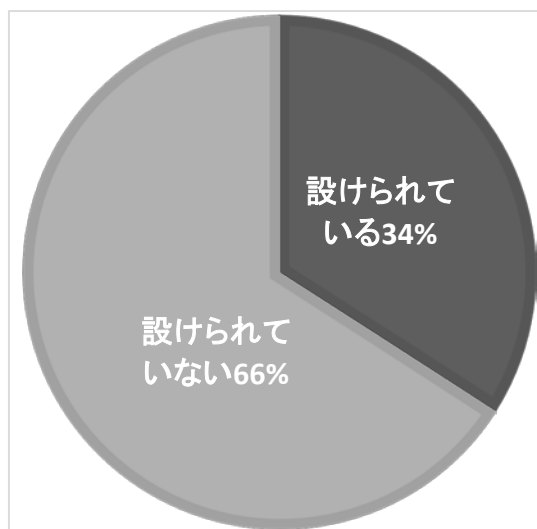
- ・ 活用の仕方（いつ、だれが進行役となり、どんな場面で、どのようなテーマで）
- ・ 効果を感じていること
- ・ プログラムをさらに充実させるために必要なこと
- ・ 外部人材活用の有無
- ・ 外部人材活用で感じていること

【親学習プログラムの活用がない場合】

- ・ 活用したことがない理由

(5) 集計結果

【問1】 貴校において、保護者を対象に子どもとの関わり方について学ぶ機会が設けられていますか。

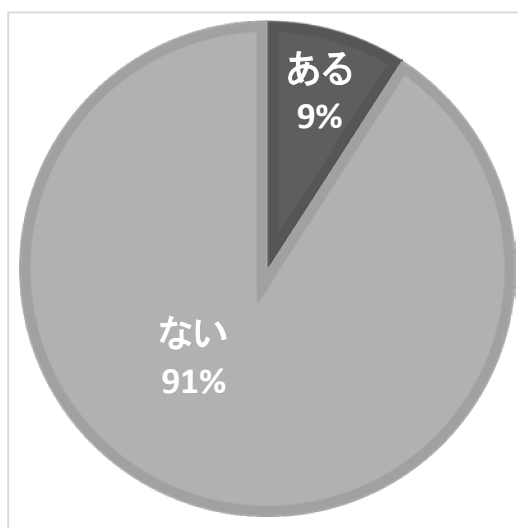


設けられている学校の割合が 34%で、具体的な取組としては、PTA総会や学年保護者会、支部会といった保護者が集まる機会に講演会を行うという回答が多く見られた。

【問2】 貴校において、保護者を対象にした学びの機会に親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムを活用したことがありますか。

※活用したことがある→問3～問8へ

※活用したことがない→問9へ



活用があると回答した学校の割合は9%で、その内訳は、高等学校4校、特別支援学校3校、附属中学校1校であった。

【問3】活用の仕方（いつ、だれが進行役となり、どんな場面で、どのようなテーマ）について詳しく教えてください。※複数回実施している場合はそれぞれお書きください。

◎いつ

H29 以前：10 件（7 校）、H30 実施：2 件（2 校）、H30 予定：2 件（2 校）

◎進行役

県職員：11 件、家庭教育支援チーム：1 件、臨床心理士：1 件、外部講師：1 件

◎場面

P T A 学年部会・保護者会：7 件、P T A 研修会：4 件、P T A 総会：2 件、振興大会 1 件

◎テーマ

「我が子は思春期真っ只中！～思春期の子育ては戸惑いや悩みの連続です～」：6 件

「我が子の進路とどう向き合ってますか？」：3 件

「思春期の子どもとの関わり方」：1 件

「障害のある我が子の理解～社会的自立までの子どもの成長に応じた保護者の対応～」：1 件

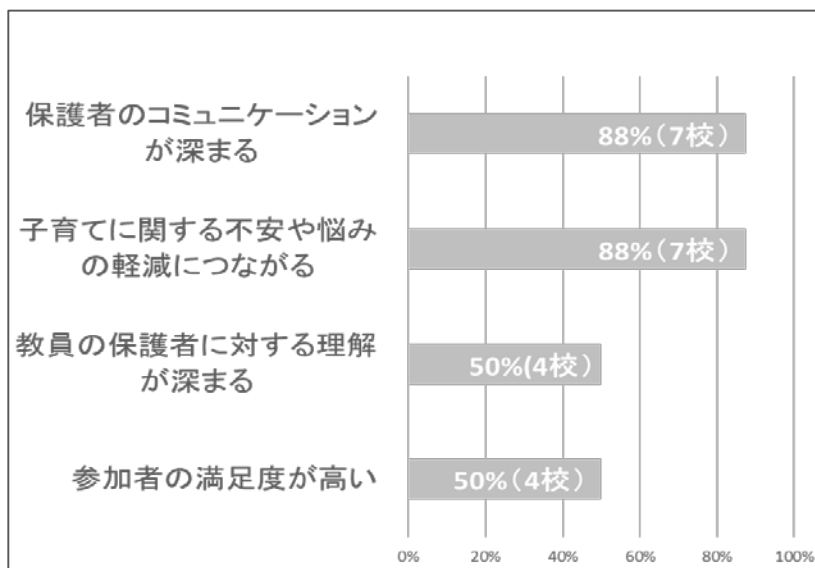
「将来の生活設計における家族で準備しておくこと」：1 件

その他：2 件

今年度の活用があるのは4校で、過去3年間に実施校は、7校から4校になっていることが分かった。進行役は外部人材が務め、活用場面の多くがP T Aの集まりだった。実施しているテーマの多くは、子どもとの関わり方、向き合い方に関するものであった。

【問4】プログラムを活用している中で効果を感じていることについて、あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

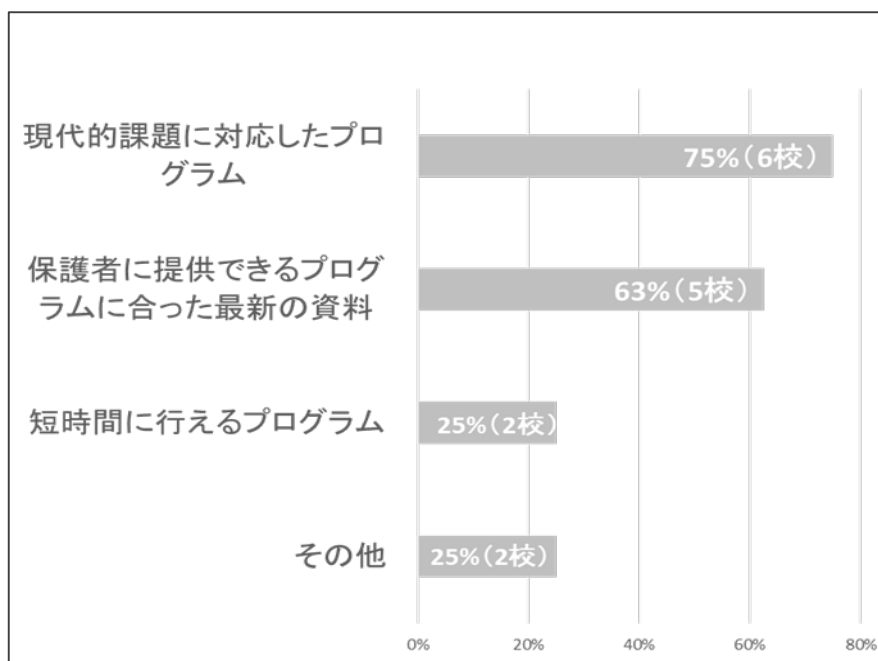
[活用がある学校(8校)の集計結果]



「保護者のコミュニケーションが深まる」、「子育てに関する悩みの軽減につながる」という回答が多い結果となった。具体的な内容として、「話し合い・発表して悩みを共有できるところがよい」「教員側も保護者理解の場としてよい機会になる」という回答があった。

【問5】プログラムをさらに充実させるために必要なことについて、あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

[活用がある学校(8校)の集計結果]



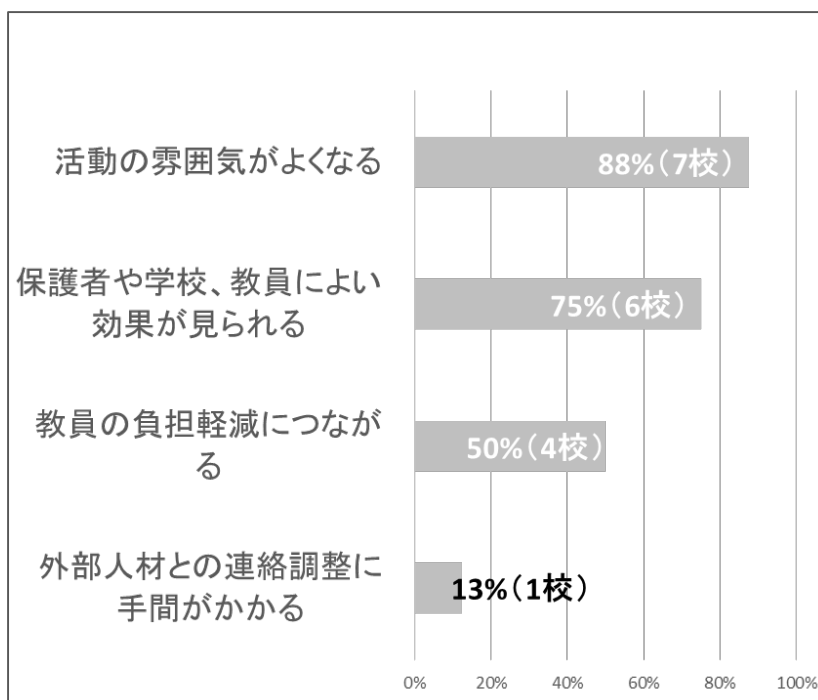
「現代的課題に対応したプログラム」、「保護者に提供できるプログラムに合った最新の資料」という回答が多い結果となった。その他では、「ワークショップ形式は楽しめる保護者がいる反面、嫌がる保護者もいます。それが故に、保護者会に参加したくないという保護者もいます」、「特別支援学校では、児童生徒の個人差が大きいため、一つのプログラムを全てに共通させることは難しいと感じている」という回答があった。

【問6】貴校において、外部人材を活用して親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムを実施したことがありますか。

→8校全てが「実施したことがある」と回答。

【問7】外部人材を活用している中で感じていることや考えについて、あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

[活用がある学校(8校)の集計結果]



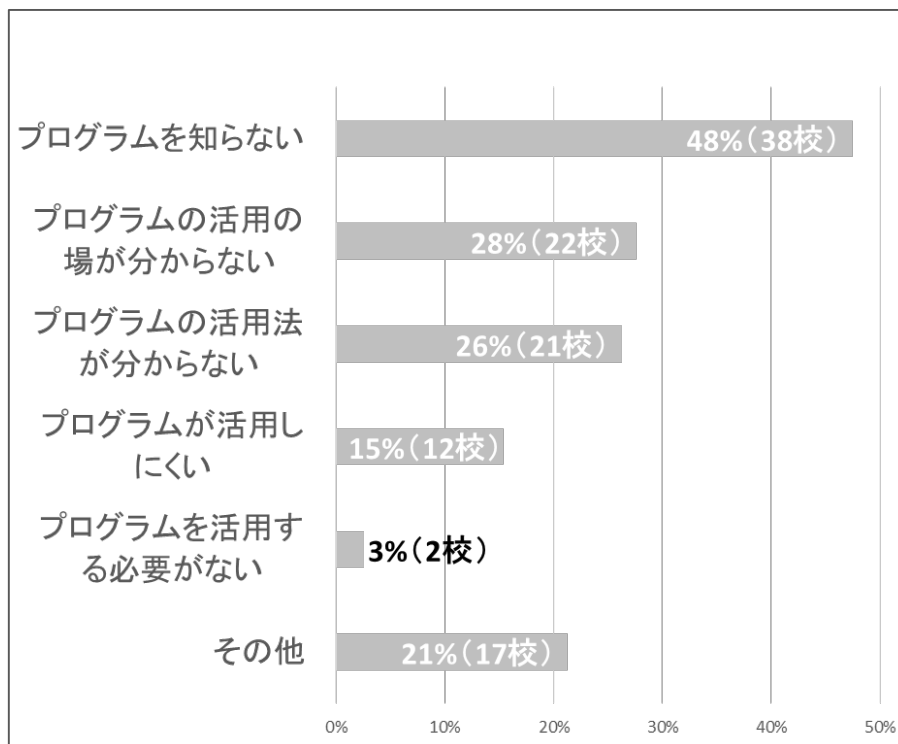
「活動の雰囲気がよくなる」、「保護者や学校、教員により効果が見られる」という回答が多い結果となった。具体的な内容として、「教員の保護者への対応が丁寧になる」、「会場づくりなども含めて全部やってくれるのでありがたい」という回答があった。

【問8】外部人材を活用していない理由について、あてはまるものすべてを選んでください。

→8校全て外部人材を活用しているため、回答した学校はなかった。

【問9】活用したことがない理由について、あてはまるものすべてを選び、具体的な理由があれば空欄にお書きください。

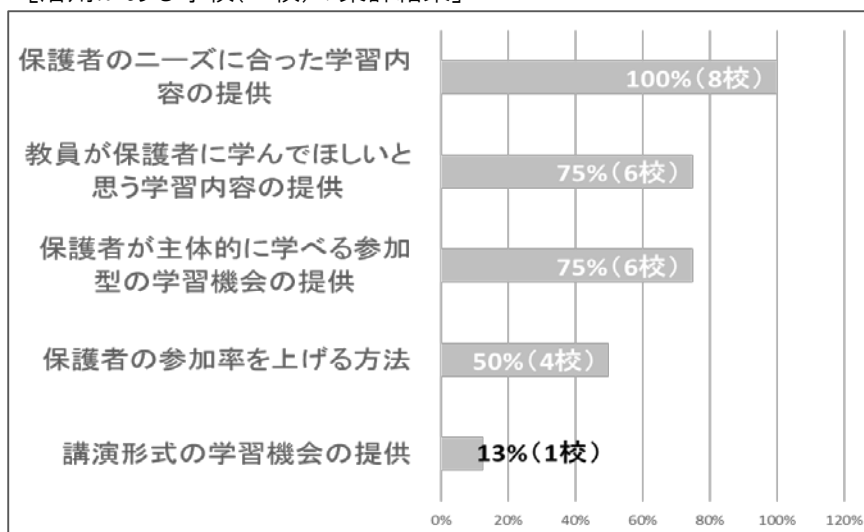
[活用がない学校(80校)の集計結果]



「プログラムを知らない」という回答が最も多く、続いて「活用の場が分からない」、「活用法が分からない」であった。具体的な内容として、「長時間に及ぶプログラムは活用しにくい」、「教員に、新しいもの（主体的に学ぶ、参加型の学習プログラム）には取り組みづらい、負担が増えるという意識があるように思う」、「プログラムがあるということは知っていたが、その内容を確認したことがなかった。今後、機会があればプログラムを活用することを検討したい」という回答があった。その他では、「行事に新たに組み入れる時間的、人的余裕がない」といった回答があった。

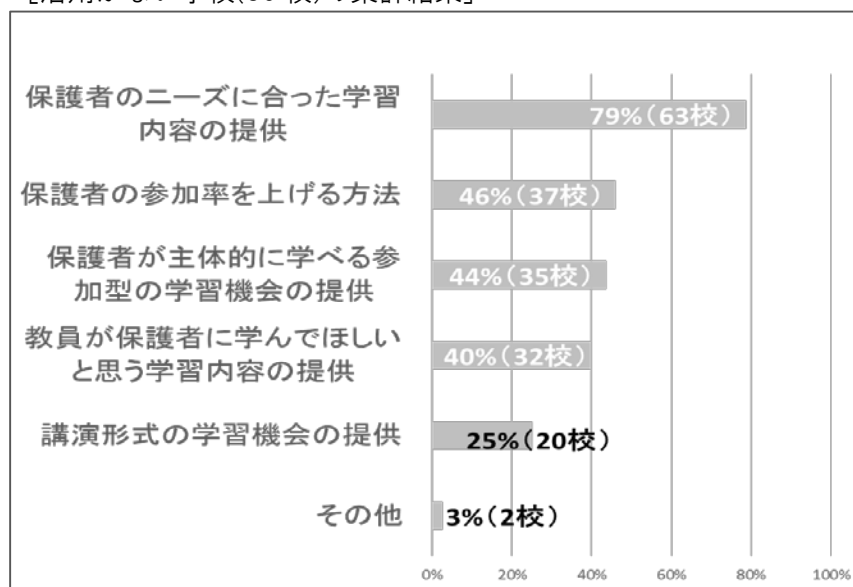
【問 10】 貴校において、保護者が子育てについて学ぶ機会を提供する（提供することになった）際、重視している（重視したい）点をすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

[活用がある学校(8校)の集計結果]



「保護者のニーズに合った内容の提供」を全ての学校が回答していた。また、「教員が保護者に学んでほしいと思う学習内容の提供」、「保護者が主体的に学べる参加型学習機会の提供」の回答も多かった。具体的な内容として、「短時間でできるプログラムをPTA 総会に組み込み、総会の出席率と保護者学習の参加者の両方を増やしたい」という回答があった。

[活用がない学校(80校)の集計結果]



「保護者のニーズに合った内容の提供」という回答が最も多かった。具体的な内容として、「アンケートを取り、研修内容の希望を聞いて参考にしている」、「学校への関心を持つ保護者ばかりではないので、参加してみたいと思わせる内容、魅力の持てる内容について苦慮している状況にある」という回答があった。その他では、「日時、場所、内容など保護者が参加しやすい設定にする」という回答があった。

【問 11】 その他、親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムについて、何か御意見等ありましたらお聞かせください。

[活用がある学校(8校)の集計結果]

○プログラムに対する自由記述

- ・通学区域が広域になる高等学校の保護者は、相互に交流する機会が少ない。
- ・「同じ悩みを持つ御家庭があり安心した（ウチの子だけではなかった）」、「他の親御さんの話を聞いて参考になった」、「楽しく参加できた」、「また来年も参加したい」など、特に1学年において非常に好評である。
- ・プログラムを運営するファシリテーターの力量や、保護者同士の活発な交流を目の当たりにして、立ち会った本校教員にとっても大変参考となっている。多くの学校で導入してはどうか。
- ・保護者の話合いのみに終わらせるのではなく、最後に、権威のある人からの「こうしたらよい」という具体的なアドバイスがある資料等が配付されると参加者の満足度や、学習したという実感が高まるのではないか。
- ・講師に来てくださった方以外にも、特別支援学校の実態を踏まえた保護者向けのお話やワークショップをしていただける外部人材がいるなら情報提供していただければ、今後の参考にしたい。
- ・保護者からは、思春期の子どもとの関わり方に関する悩み（反抗期）の相談が多いため、その解決の糸口になれば、と思っている。子育てに関する他の問題についても、専門家のアドバイスが受けられる研修があれば、活用していきたい。

[活用がない学校(80校)の集計結果]

○プログラムに対する自由記述

- ・これをきっかけに内容について学ばせていただき、活用できるところは利用を計画したい。
- ・勉強不足のため本プログラム内容の詳細は分からないが、親に対して子どものことについて学んでもらう機会を設けることはとても良いことだと思う。
- ・できれば中学生のときにプログラムを実施していただくと良いのではないかと思う。
- ・本校ではこのプログラムを活用したことがないので、PTA総会や学年部会の際に配付できるようなリーフレット等をご紹介いただくと助かる。
- ・短時間で実施できるプログラムの存在を知りたい。
- ・子育てを終えた先輩諸氏の体験談やアドバイスなどであれば親は関心を示すかもしれない。
- ・このプログラムに関する先生方の認知度は低いと考えられる。実際に学校行事の計画を担当する教務主任（教務担当主幹教諭）の研修機会があれば、このプログラムの活用法について紹介してもよいかと思う。
- ・プログラムの内容を抜粋し、本校の実態に合わせて活用したいと思った。

- ・プログラムについて、理解不足だったので、今後理解を深めて、活用できればよいと思った。
- ・内容は大変よいものだと思うが、本校の実態として、多種多様な病気・障害のある児童生徒が在籍し、少人数なため、一斉に同じ内容で学習会を実施することが難しいのが現状である。
- ・必要な生徒（家庭）がでた際にすぐに取り出して使えるようなデータの保管と継続的な周知をお願いできればありがたい。
- ・プログラムについて校内で引継ぎが十分ではなかった。今後、参考にさせていただこうと思う。
- ・保護者の子育てに関する研修の機会を持っているので、プログラムの必要性をあまり感じていない。

（6）アンケート調査のまとめ

保護者を対象に子どもとの関わり方について学ぶ機会を設けているのは、30校34%であった。そして、保護者を対象にした学びの機会に「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」を活用したことがあるのは、8校9%という1割に満たない状況であった。高校生の保護者対象の学習機会の提供が少ないことが明らかになるとともに、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用状況について知ることができた。

「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用がある学校については、過去3年間での実施が7校から4校になり、減少傾向にあることが分かった。また、活用している中で、「保護者のコミュニケーションが深まる」、「子育てに関する悩みの軽減につながる」といった効果を感じている学校が多く、「同じような悩みや考えを持つ存在を知ることができる」、「正解を求めるのではなく、話し合い、発表して悩みを共有できる」、「教員側の保護者理解の場として良い機会になる」といった参加型学習のメリットについても十分感じ取っている学校があった。そして、全ての学校で、実施する際は外部人材を活用しており、「活動の雰囲気よくなる」、「保護者や学校、教員により効果が見られる」といった効果を多くの学校で感じていた。さらに教員の負担軽減につながると感じている学校が半数あり、「会場づくりなども含めて全部やってくれるのでありがたい」といった回答も見られた。

「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用がない学校については、活用したことがない理由として、「プログラムを知らない」が最も多く、続いて「活用の場が分からない」、「活用法が分からない」であった。その他の理由に、「行事に新たに組み入れる時間的、人的余裕がない」といった回答が多く見られたり、「親学習プログラム」の周知が不十分で、よく分からないものと見なされたりしている状況を確認することができた。

保護者を対象に子育てについて学ぶ機会を提供する際に重視している点を尋ねたところ、活用がある学校も活用がない学校も「保護者のニーズに合った学習内容の提供」が最も多い回答であった。また、「講演形式の学習機会の提供」を重視しているとする学校は、活用がある学校の1校に対して、活用がない学校は20校となり、回答結果に差が見られた。

自由記述において、活用がある学校では、「通学区域が広域になる高校の保護者は相互に交流する機

会が少ない」、「プログラム実施は教員にとって大変参考になっている、多くの学校で導入してはどうか」、「具体的なアドバイスがある資料等の配付で参加者の満足度や意欲が高まるのでは」、「特別支援学校の実態を把握している外部人材がいたら情報提供してほしい」、「保護者からは子どもとの関わり方に関する悩みの相談が多い」といったことがあった。また、活用がない学校では、「プログラムについて理解不足だった」、「引き継ぎが不十分だった」、「先生の認知度は低い」、「研修の機会があれば紹介してもよい」、「本校の実態に合わせて活用したい」、「短時間で実施できるプログラムを知りたい」、特別支援学校からは、「子育てを終えた方の体験談やアドバイスなどあれば保護者は関心を示すかもしれない」、「児童の実態や人数によって一斉に同じ内容は難しい」といったことが出ていた。